

文化をめぐる人文と工学の研究グループ

[領域横断による工学の新展開]

生産技術研究所 研究グループ

Research Group on Culturally-Informed Engineering

生研がもつ強み

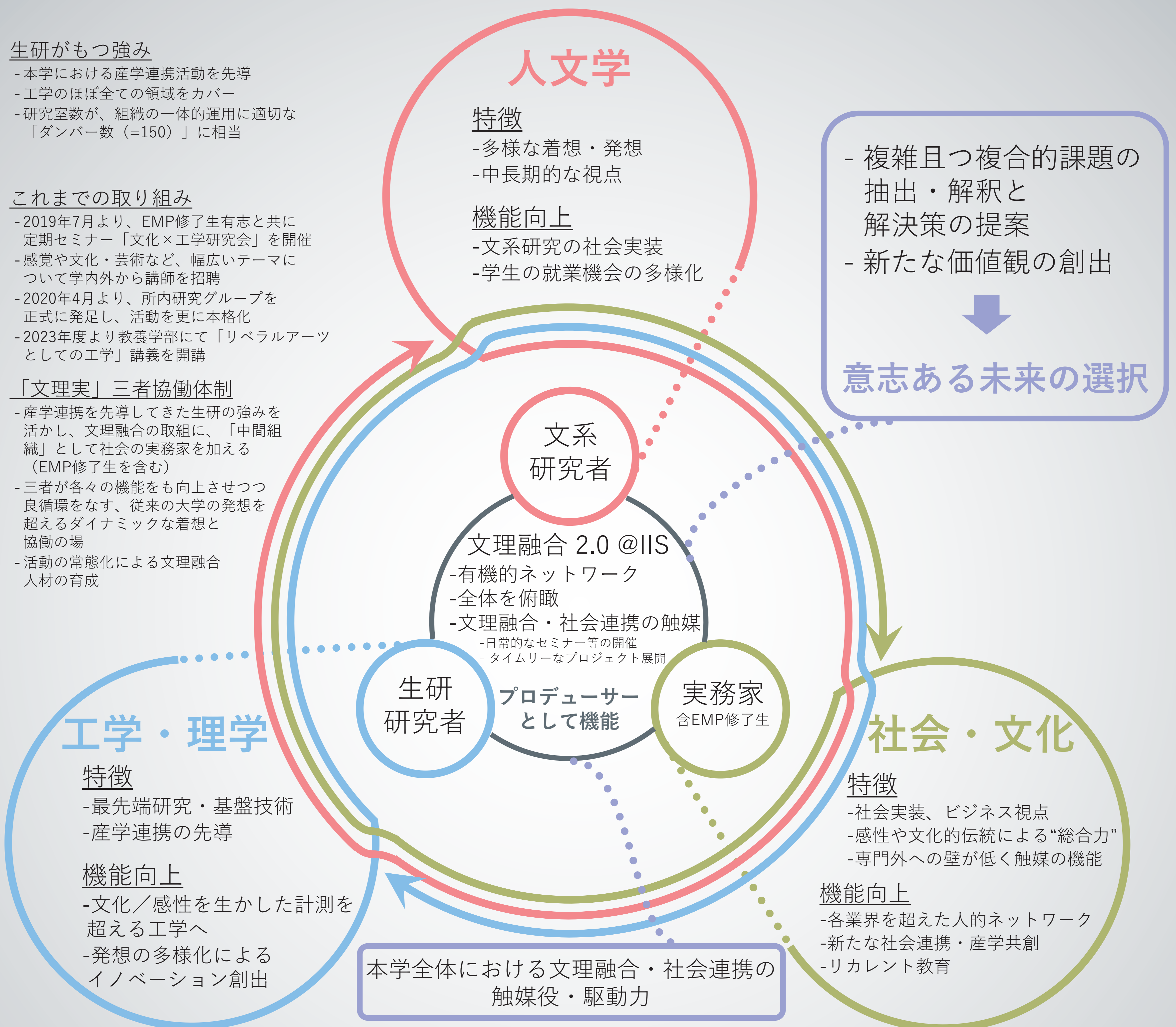
- 本学における産学連携活動を先導
- 工学のほぼ全ての領域をカバー
- 研究室数が、組織の一体的運用に適切な「ダンパー数 (=150)」に相当

これまでの取り組み

- 2019年7月より、EMP修了生有志と共に定期セミナー「文化×工学研究会」を開催
- 感覚や文化・芸術など、幅広いテーマについて学内外から講師を招聘
- 2020年4月より、所内研究グループを正式に発足し、活動を更に本格化
- 2023年度より教養学部にて「リベラルアーツとしての工学」講義を開講

「文理実」三者協働体制

- 産学連携を先導してきた生研の強みを活かし、文理融合の取組に、「中間組織」として社会の実務家を加える (EMP修了生を含む)
- 三者が各々の機能をも向上させつつ良循環をなす、従来の大学の発想を超えるダイナミックな着想と協働の場
- 活動の常態化による文理融合人材の育成



所属研究者：石井和之 教授、今井公太郎 教授、川添善行 准教授、戸矢理衣奈准教授
野村政宏教授、本間裕大 准教授、松永行子教授

(注) 本研究グループにおける「文系の研究者」とは本学教養学部における「文系」領域の研究者を指す

